

令和 4 年 8 月 29 日現在

機関番号：35503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02689

研究課題名(和文) イメージ・コンピテンシーと現代ドイツ芸術教育論の新潮流

研究課題名(英文) Image Competency and New Trends in Contemporary German Art Education

研究代表者

清永 修全 (Nobumasa, Kiyonaga)

東亜大学・芸術学部・教授

研究者番号：00609654

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2001年の「ピサ・ショック」に端を発するドイツの教育改革を背景に本格的に台頭してくる、現代ドイツにおける芸術教育学上の一つに数えられる「イメージ指向の芸術教育」の潮流に着目し、とりわけその鍵となる概念である「イメージ・コンピテンシー」の理解を軸に本潮流の理論的・実践的射程を見極めることを試みた。その際、本潮流を、現行の実証主義的な教育の流れやそれをめぐる論争、とりわけ陶冶論をめぐり議論において理解するとともに、「イメージ学」をはじめとする美学・芸術学、美術史や視覚文化研究の最新の成果とも比較・検証することで、その可能性の所在を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代における芸術教育学をめぐる動向や論点を、ドイツにおける2000年以降の優勢な新潮流の一つに焦点を当て、その理論的構成を、現在の教育学上の要請やそれをめぐる議論、とりわけ陶冶論をめぐり論争、さらには美学・芸術学、美術史や視覚文化研究上の動向や成果などの観点から多角的に分析することで、これまで本邦ではなお十分には吟味されていない現代ドイツ芸術教育論について新たな知見を提供するのみならず、21世紀の芸術教育学・美的感性的陶冶論を考える視座を提供し、新たな可能性と方向性について示唆することができた。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the trend of "Image-oriented Art Education" which is one of the most important contemporary new trends in Art Education in Germany. It emerged against the backdrop of the German educational reforms triggered by the "Pisa Shock" in 2001, and attempts to determine the theoretical and practical scope of this trend based on an understanding of the key concept "Image Competency". This research has clarified the potential of this trend by understanding it in terms of the current positivist educational trend and the controversies surrounding it, especially in terms of debates over the philosophy of education, and by comparing and examining it with the latest achievements in aesthetics and art studies, including "Bildwissenschaft", art history, and visual culture studies.

研究分野：芸術文化政策論、現代芸術教育論、美術理論

キーワード：芸術教育学 ドイツ イメージ学 イメージ指向の芸術教育 イメージ・コンピテンシー 視覚文化
美的・感性的陶冶 現代陶冶論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

ドイツでは、とりわけ 2000 年に OECD によって実施された「PISA テスト（生徒の学習到達度調査）を契機に教育成果の深刻な低迷が露呈し、いわゆる「PISA ショック」と呼ばれる事態が生じる。これを受けて始まる国をあげての教育制度の包括的な改革において「文教政策的なパラダイム・チェンジ」とも言える大きな転換が起こる。そこでは、具体的な成果に照らして実証主義的に把握されるべき問題解決能力である「コンピテンシー概念」を軸に、教育内容の「スタンダード化」をベースとしたアウトプット指向の教育が前面に押し出されてくる。当初、本原理の芸術教科への適用は念頭におかれていなかったものの、教科としての存続に対する危惧から、その是非を巡って大きな論議を呼ぶ。この中から、上記の教育改革の潮流に歩調を合わせる仕方で、教科としての再編に取り組もうとする動向が現れてくる。それが、本研究で扱おうとしている「イメージ・コンピテンシー」の概念をベースとした「イメージ指向の芸術教育」の潮流である。本動向は、電子メディアとそれに依拠した情報化社会、メディアからの夥しい画像情報に晒されて送る日常生活の現実を視野に収め、美学や芸術学の最新の成果をも反映させつつ、芸術をも広い意味での画像＝イメージの問題として位置付け直すことで教科の刷新を図ろうとする運動として展開する。しかしながら、本邦では、こうした新たな動向を詳細かつ体系的に報告する研究はまだ見当たらない状況にあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、こうした中で、とりわけ本潮流の超領域的な理論構成に着目し、現代の教育学的論争、とりわけ陶冶論をめぐる新たな理論的布置に位置付ける一方で、その潮流が、美学や芸術学、美術史研究、視覚文化研究の成果をいかに反映させようとしているのかを、1990 年代以降急速に台頭してくる「イメージ学」の理論的成果の受容に着目しつつ、吟味することで、その可能性と限界を見極めようとすることにあった。

3. 研究の方法

研究方法としては、まず本テーマに関しドイツ語圏で発表された様々な著書や論考、報告書などの中から、とりわけディスカールをリードすることになる主要な論者や研究者のテキストに焦点を当てながら講読・分析し、検討を加える一方、現地に飛んで実際にその論者たちと会い、その論点をめぐり率直な意見交換を行い、そのことを通じて論点を鮮明に浮き彫りにするよう努めた。また、実践現場との呼応関係にも配慮すべく、本スタンスを取り入れ旺盛な実践活動を展開する学校を訪れ、授業参観を行い、その関係者から聞き取り調査を行うという仕方で、複眼的なアプローチで研究を進めていった。さらに、超領域的なその理論構成を遺漏なく

視野に入れて吟味できるよう、現代の美学・芸術学、美術史研究をめぐる最新のディスコース、とりわけ「イメージ学」の展開についても目配せをし、その理論的射程を正確に把握するよう努めた。

4. 研究成果

「イメージ指向の芸術教育」を代表する個々の主要な論者の著作との集中的な取り組みとそれらの研究者たちとの多様な対話、さらには実践視察を通じて、本潮流の背景やとりわけ 1970 年代の「ビジュアル・コミュニケーション」をはじめとする歴史的ルーツ、それぞれの論者によるスタンスや論点・力点の差異によって生じる議論の広がりや議論の射程がより立体的に奥行きを持って把握できるようになった。それ以前の筆者の研究ではなお表面的なものにとどまっていた理解の多くの部分も改めることできた。また、表記の潮流に対抗する議論にも傾聴することで、その問題点もより具体的に理解できるようになった。さらに、「イメージ学」の展開とその主要な議論を 19 世紀末の美術史家アビ・ヴァールブルクの「ムネモシユネ」プロジェクトまで遡って追いかけて、取り組むことで、本潮流のアクチュアリティの所在を美学・芸術学の議論の大きな枠組みの中で再確認できたことも大きな成果の一つであると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Nobumasa Kiyonaga	4. 巻 -
2. 論文標題 Katsushika Hokusai, "Nami-ura " (The Backside of the Wave)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The project "Exploring Visual Cultures " (Bilder - Bilderwelten - Weltbilder) of the Academy of Fine Arts, Munich	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobumasa Kiyonaga	4. 巻 -
2. 論文標題 Die Monsterwelle von Hokusai - Zur Wahrnehmung von Hokusais "Die grosse Welle vor Kanagawa " an japanischen Schulen	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Das Projekt an der Akademie der Bildenden Kuenste Muenchen "Exploring Visual Cultures " (Bilder - Bilderwelten - Weltbilder)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清永修全	4. 巻 32
2. 論文標題 イメージ・コンピテンシーの理論に基づく芸術科の授業とは - フィルダー・ベンデン・ギムナジウムにおける授業実践についての報告 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東亜大学紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清永修全	4. 巻 29
2. 論文標題 イメージ・コンピテンシーとその射程：現代ドイツ芸術教育学の潮流	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東亜大学紀要	6. 最初と最後の頁 23-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobumasa Kiyonaga	4. 巻 Nr, 1
2. 論文標題 Warum man jetzt die Diskussion zur Kunstpaedagogik im deutschsprachigen Raum verfolgen muss	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BDK-Mitteilungen	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清永修全	4. 巻 第28号
2. 論文標題 精神分析学者・芸術教育学者カール=ヨーゼフ・パツィーニ教授との対話(後編)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東亜大学紀要	6. 最初と最後の頁 14-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Bernadette Van Haute, Ernst Wagner, Nobumasa Kiyonaga	4. 巻 -
2. 論文標題 Yinka Shonibare CBE (RA), Mrs Pinckney and the Emancipated Birds of South Carolina	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The project "Exploring Visual Cultures " (Bilder - Bilderwelten - Weltbilder) of the Academy of Fine Arts, Munich	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清永修全	4. 巻 第34号
2. 論文標題 哲学者ヴォルフガング・ヴェルシュとの対話(前編) 芸術教育をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東亜大学紀要	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 清永修全
2. 発表標題 アルフレート・リヒトヴァークによる総合的な「感性教育」としての「芸術教育」の試みについて
3. 学会等名 平成30年度（2018年度）基盤研究（B）（一般）研究 研究代表者：小松佳代子「判断力養成としての美術教育の歴史的・哲学的・実践的研究」判断力科研、第7回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobumasa Kiyonaga
2. 発表標題 Das Fach Kunst und der Begriff der Bildung im japanischen Zusammenhang; Zu einer doppelten Schwierigkeit aus vergleichender Perspektive
3. 学会等名 Tagung in der Aula der Kunstakademie Duesseldorf 14.-15. Januar 2020. Kunstunterricht und Bildung（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Kunibert Bering（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ATHENA-Verlag	5. 総ページ数 234
3. 書名 Kunstunterricht und Bildung. Kulturelles Gedächtnis - Globalität - innovative Perspektiven	

1. 著者名 Jutta Stroeter-Bender（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Tectum Wissenschaftsverlag	5. 総ページ数 358
3. 書名 Das Erbe der Kinder The Children's Heritage Provenienzforschung und Sammlungsgeschichte von Kinder- und Jugendzeichnungen Provenance Research and the History of Children's and Youth Drawings Collections	

1. 著者名 久田敏彦監修、ドイツ教授学研究会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八千代出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 PISA後のドイツにおける学力向上政策と教育方法改革	

1. 著者名 Lode Vermeersch, Ernst Wagner, Rainer Wenrich (Eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Waxmann Verlag GmbH	5. 総ページ数 178
3. 書名 Guiding the Eye. Visual Literacy in Art Museums	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------